

〇〇科学習指導案(〇次案) 〇学年
単元名『〇〇〇〇〇〇』

平成〇年〇月〇日(〇) 第〇校時
授業会場 〇年〇組教室
〇年〇組 男子〇名 女子〇名 計〇名
指導教官 〇〇 〇〇教諭
授業者 〇〇 〇〇

1 本時の位置 (全〇時間扱い中の第〇時)

前時：(こんな前時の学習活動)をした。

次時：(こんな次時の学習活動)をする。

2 本時の主眼

(こういう意識や願いの) 子どもたちが(こんな学習問題)の場面で、(こんな学習課題)をして、(こんな全体追究)をすることを通して、(こんなねらい)ができる(わかる)。

3 指導上の留意点

- ・(その物を用意する理由) ことができるように、(その物)を(これだけ)用意する。
- ・(このように安全に学習することができるように(こんな危険がないように))、(このような安全上必要な配慮)をする。

4 本時の展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
	※主語は子ども(主語はつけないが)			※支援は「意図(～ことができるように)、支援の内容(～する)」
導入	1 (学習問題につながる)〇〇をする。	・(提示に対して反応している子)。 ・(今日はこうしたいな(学習問題につながる反応をしている子))。	5	○ (「こんな学習問題」に興味をもつ、「こんな問題点を感じる」) ことができるように、(「こんな提示、こんな場の設定、前時の振り返り」)をする。
	【こんな学習をこんな観点で】しよう(考えよう、なろう)			
展開	2 どうすれば(～学習問題の解決)ができそうか、追究の見通しを話し合う。	・(こんなやり方)をすればいいと思う。 ・(こんなやり方)をしてもいいと思う。 ・(こんなやり方)をしてもいいと思う。	10	○ (「こんな学習問題」の解決に向けた見通しをもつ) ことができるように、(どうすれば「この学習問題の解決」)ができそうかを話し合う場を設ける。 「どうすれば～できそうかな?(実際に子どもたちに投げかける言葉)」
	【1人目の提案】したり、【2人目の提案】したり、【3人目の提案】したりすればよさそうだ。			
展開	3 (学習課題をもとにしたこんな個人追究)をする。 【個人追究場面】	・(個人追究をしているときの、それぞれの子の言葉、思い) ・～ ・(教師の支援を受けての子どもの反応) ・～ ・～ ・(教師の支援を受けての子どもの反応) ・～ ・～	20	○ (こんな学習問題解決に向けた追究)をしていくことができるように、(こんな場(時間))を設ける。 ○ 「こんな自分の追究のよさ」に気付くことができるように、共感的な言葉がけをしたり、全体に伝えたりする。
	4 (個人追究をもとにしたこんな全体追究)をする。 【全体追究場面】	・(わたしはこうだよ(自分の追究の発表))。 ・(ぼくはこうだよ(自分の追究の発表))。 ・(◇さんは～なんだ。たしかに～だね(上の子について反応する子)) ・(深まりをもたらす「こんな問題点」などに気付いている子の言葉) ・(「問題になっている点」に答えたり、自分や友だちのよさに気付いたりしている子) ・(上の子に共感している子) ・(自分たちの追究のよさをまとめている子)	10	○ (「こんな友の追究のよさ」に気付いたり、「こんな問題点」について考えたりする) ことができるように、(こんな全体追究の場)を設ける。 ○ (「こんな学習活動の深まり」をもたらす) ことができるように、(「こんな問いかけ」をしたり、「こんな子の意見」を取り上げたり)する。
	5 本時の追究を振り返る。	・(本時に追究した満足感を感じている子) ・(次時に向けて、「こんな追究」をしたいと考えている子)	5	○ (「本時、こんな追究をしたよさ」に気付いたり、「次時に向けてこんな願いをもつ」) ことができるように、(こんな振り返りの場)を設ける。
まとめ				評価：(主眼のねらい)している。 ～している様子、発言、表情、つぶやきから

図画工作科学習指導案(本次案) 4 学年

単元名『夏の俳句を絵にしよう!』

1 本時の位置 (全4時間扱い中の第3時)

前時: 割りばしと墨を使って、夏の絵を描いた。

次時:

2 本時の主眼

割りばしと墨を使ってかいた俳句と絵に、色を付けて素敵な絵手紙にしたいと願う子どもたちが、水彩絵の具を使って水で色をにじませたり筆で色をとんとん置いたりする場面で、筆につける水や絵の具をとく水の量を調節したり、さまざまな色の組み合わせを試して、自分の作品にはどうやって色をつけるのが良いか追究することを通して、偶然あらわれたにじみの表情や、色の混ざり合う様子、技法の違いによって現れる絵の具の表情の違いを楽しみながら着色し、作品を完成させることができる。

3 指導上の留意点

- ・水をつけすぎて画用紙が破れてしまわないように、水分量に注意する。
- ・色を混ぜすぎて、画面を汚してしまわないように注意する。
- ・机の上が水浸しにならないように、新聞紙を敷いて作業する。

4 本時の展開

階	学習活動	予想される児童の反応	嚀	指導・援助と評価
導 入	1 水彩博士から作戦①と作戦②を提案する。	・どうゆうこと? ・なにそれ! ・わくわく... ・意味わかんない!	5	○児童の机の上に絵の具と新聞紙、作品を用意してある状態ではじめる。 ○似顔絵を張り、「私の頭の中にある水彩博士からふたつの作戦を提案されました!」 ○黒板に掲示物を張りながら作戦2つ ・作戦①水でにじみ作戦 ・作戦②筆でとんとん作戦 を発表する。
	水で色をにじませたり、筆で色をとんとん置いてみよう!	・その塗り方やったことあるよ! ・〇〇の時にやったそれ! ・色を置く...??		
展	2 ワークシートを つかってふたつの作戦をやってみせる。	・きれい。 ・おお... ・むずかしそう。 ・うまくできるかなあ。	10	○1班から3班, 4班から6班に分けて順番に前に出てきてもらい作戦を伝授する。 「はい、これからダメな塗り方やります。見ていてね。」と、はじめに今回は筆をおいたまま滑らせるような塗り方はしてはいけないと伝える。 ○にじみの時、水は円からはみ出さないようにぬるよう指導する。 ○にじみの時、水を塗る筆にすでに絵の具がついてしまっていないか確認するよう注意を促す。 ○水の量については ①筆を持ち上げたときにぼたぼた垂れないこと ②画用紙の表面がテカテカ光る程度の二点を目安にするように声掛け。
	画用紙につける水や絵の具をとく水の量を調節したり、さまざまな色の組み合わせを試したらよさそう。	・風鈴にはどっちがいいかな。 ・どっちもやってみたいな。 (実習生の作品をみて) ・だれがかいたの?? ・これかいたの〇〇先生でしょう。 ・これ上手〜。 ・私もこんな風に書きたい!		
開 末	3 ワークシートを配布しふたつの作戦に挑戦してもらおう。	・うおお、きれい! ・すごいすごい! ・うまくいかないよ。 ・プールはにじみをつかったら良さそう! ・夕焼けは作戦②を使いたいな。	20	○注意してほしい点は何回も声をかけ確認する。 ○机間指導をして、それぞれの進捗を確認する。
	4 自分の作品に色を付ける。	・墨汁がにじんじゃった。 ・作戦①と②どちらを使おう。 ・ここは何色がいいかなあ。	10	○ワークシートでの作業の進捗を確認し、全員一緒に自分の作品の着色に入る。 ○水の量に注意する。

平成30年6月28日(木) 第5・6校時
 授業会場 4年西組教室
 4年西組 男子20名 女子16名 計36名
 指導教官
 授業者

	・細かいところが難しいよ。 ・水でべちゃべちゃになっちゃった。 ・きんちょうするなあ。 ・失敗したらどうしよう。 ・汚くなっちゃった！（→◎） ・あれはにじみ作戦で描いてる！ ・たくさんあるなあ。 ・細かくて見えないよ。	○水で画用紙が柔らかくなってしまった児童のために、ティッシュなどを用意する。 ◎画面が汚れてしまった児童がいたら、水をつけてティッシュペーパーなどでふき取る等の対応をする。 ○6限の時間に作品をスクリーンに映して鑑賞しあう。 評価：偶然あらわれたにじみの表情やにじんでいく様子を楽しみながら着色することが出来た。
--	---	--